

時 期	4 壮 年 期		5 高 齢 期
	25 ～ 64 歳		65 歳 以 上
主 要 学 習 課 題	①健康の増進・体力づくり	(ア)健康・体力の増進 一食生活の改善、スポーツ活動への参加一	(ア)健康・体力の増進 一健康管理、軽スポーツ活動への参加一
	②人間形成上の基礎・基本の習得	(ア)心の豊かさの確立向上	(ア)自主性、自立心の高揚
	③職業・技術の学習・訓練	(ア)職業上の役割意識の確立 (イ)職業についての知識・技術の更新	(ア)職業意識の確立 (イ)再就職のための知識・技術の修得
	④文化的活動による自己充足	(ア)文化の伝承と創造 (イ)生活文化の創造 (イ)生活文化の継承と創造	
	⑤市民的生きがい創造	(ア)地域連帯感の醸成 (イ)社会参加活動の企画運営 (イ)社会参加活動の実践 (ウ)明るい選挙の推進 (ウ)主体的参政権の行使	
	⑥郷土理解と国際理解	(ア)郷土の伝統文化の継承や自然の愛護 (イ)国際的視野の拡大 (イ)郷土の伝統文化の伝承	
	⑦高齢化社会への対応	(ア)生活設計に基づく生活 (イ)高齢者の扶養 (イ)高齢者の介護 (ウ)余暇活動の充実と仲間づくり (イ)他世代との交流 (イ)仲間づくり	
主要教育課題	① 家庭生活の充実 ② 高等学校、大学等の開放		① 高齢者生きがい対策の推進 ② 老人クラブ活動の奨励援助
	③ P T A等の成人団体活動の奨励援助 ④ 成人指導者の養成	③ 学習機会の拡充 ④ 消費者教育の推進 ⑤ 婦人団体活動の奨励援助と地域婦人団体の育成助長 ⑥ 婦人教育指導者の養成	

③ 青年期

が必要である。
また、進路指導に関し、地域の実情や将来構想に立脚し、学校、家庭、地域間の連携、協力を一層強化することが必要である。

(ウ) 少年の団体活動、地域活動をすすめるため指導者の計画的、継続的養成が必要である。

青年は、とかく知識のみの習得に偏りがちとなり、全人的教育の不足が指摘されている。
今日の変貌の激しい社会の中にあって、青年の生活の中に表れている共通の変化は、産業構造の変化に伴う就業選択の多様化により、勤労青年は流動化している。これらの青年に共通してみられるものは、生活の変化の中にあつて、青年たちに都市生活へのなじみがたい疎外感ないし孤独感である。

一方、人口の都市集中は人口の過疎地帯を出現させており、農林漁業に従事している青年の中にも孤独に悩み、将来への不安を感じている者も少なくない。

また、現代の青年は合理的であり、自己主張、行動力は豊かである反面、現実的、物質的、さらには感覚的、享乐的な意識傾向が一

つの問題として指摘されている。こうした中で、青年が二十一世紀の担い手としてのたくましい実践力を育てるために、次のような課題があげられる。

(ア) 自己の役割と責任の自覚をうながすため、主体的、積極的に団体活動、奉仕活動等の社会参加の機会を設ける必要がある。

(イ) 時代の進展に即応する知識、技術の習得のための各種学級、講座の開設、特にやがて結婚し家庭生活の主人公になることをふまえ、結婚、妊娠、子育てについても、この時期に十分学習しておく必要がある。

(ウ) 在学青年にあつてはともすれば、知識のみの習得にかたよりがちとなり、全人的教育の不足が指摘されていることから、青年の家の活用による、社会的陶冶の場の拡充を図る必要がある。

(イ) 農山漁村における後継者づくりも深刻な問題であり、地場産業の振興に合わせ、地域ぐるみで取り組む必要がある。

(ウ) 青年の学習を奨励援助するための指導者の養成、研修の強化が必要である。

④ 壮年期

最近の経済社会の変動、価値観の多様化などの中で、とかく子育